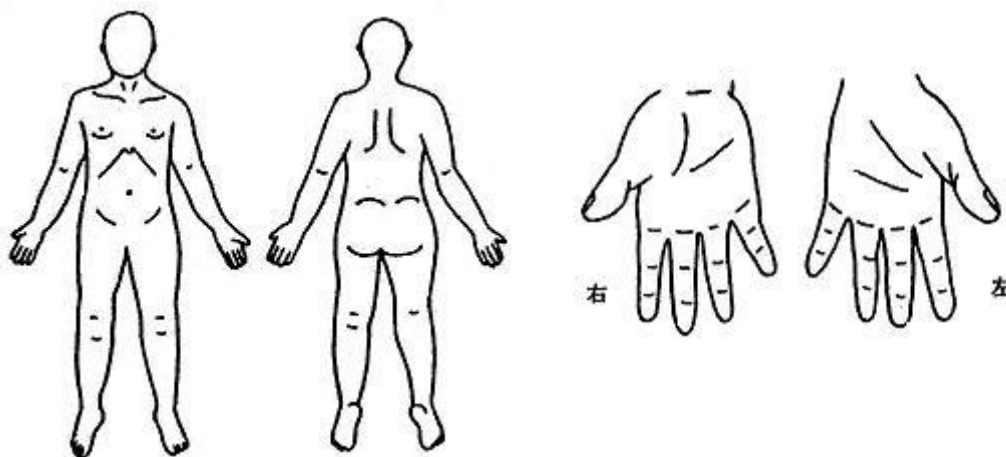


肢 体 不 自 由 の 状 況 及 び 所 見

1 神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ，下記空欄に追加所見記入。）

- （１）感覚障害（下記図示）（有（感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚）・無）
 （２）運動障害（下記図示）（有（弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・振戦・運動失調・その他）・無）
 （３）起因部位（脳・脊髓性・末梢神経・筋肉・骨関節・その他）
 （４）排尿・排便機能障害（有・無）
 （５）形態異常（有・無）

参 考 図 示



x 変形 切離断 感覚障害 運動障害 （注）関係ない部分は記入不要

右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

計測法：

上肢長：肩峰 → 橈骨茎状突起
 下肢長：上前腸骨棘 → （脛骨）内果
 上腕周径：最大周径
 前腕周径：最大周径
 大腿周径：膝蓋骨上縁上 10 cmの周径（小児等の場合は、計測位置を欄外に併記すること）
 下腿周径：最大周径

2 動作・活動 自立－○ 半介助－△ 全介助又は不能－×

寝返りする	排泄のあと始末をする	顔を洗いタオルで拭く
足をなげ出して座る	（箸で）食事をする （スプーン，自助具）	タオルを絞る
椅子に腰かける	コップで水を飲む	背中を洗う
立つ（手すり，壁，杖，松葉杖，義肢，装具）	シャツを着て脱ぐ	二階まで階段を上って下りる （手すり，杖，松葉杖）
家の中の移動（壁，杖，松葉杖，義肢，装具，車椅子）	ズボンをはいて脱ぐ（自助具）	屋外を移動する（家の周辺程度）（杖，松葉杖，車椅子）
洋式便器にすわる	ブラシで歯をみがく（自助具）	公共の乗り物を利用する

注1 （ ）に掲げる補助具等を用いて評価するときは，該当する字句を丸で囲むこと。

2 身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）内の字句が○で囲まれている場合は，原則として自立していないという解釈になります。

3 関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) ※人工関節等置換者は、必ず置換術後の状態を記入すること。


筋力テスト ()		関節可動域	筋力テスト ()		関節可動域	筋力テスト ()	
() 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		後屈 ()	頸 ()	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	左屈 ()	右屈 ()
() 前屈			後屈 ()	体幹 ()		左屈 ()	右屈 ()
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		伸展 ()	() 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	屈曲 ()	左
() 外転			内転 ()	肩 ()		外転 ()	
() 外旋			内旋 ()	() 内旋		外旋 ()	
() 屈曲			伸展 ()	肘 ()		屈曲 ()	
() 回外			回内 ()	前腕 ()		回外 ()	
() 掌屈			背屈 ()	手 ()		掌屈 ()	
() 屈曲			伸展 ()	中指節 ()		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	近位指節 ()		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	PIP ()		屈曲 ()	
() 屈曲			伸展 ()	() 伸展		屈曲 ()	
() 外転			内転 ()	股 ()		外転 ()	
() 外旋			内旋 ()	() 内旋		外旋 ()	
() 屈曲			伸展 ()	膝 ()		屈曲 ()	
() 底屈			背屈 ()	足 ()		底屈 ()	

人工関節等置換術施行日 部位 (右 ・ 左) 関節 施行日 (年 月 日)

人工関節等置換術施行日 部位 (右 ・ 左) 関節 施行日 (年 月 日)

参考意見

注：

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を 0 度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線（〽）を引く。
4. 筋力については、表（ ）内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失または著減（筋力 0、1、2 該当）

△印は、筋力半減（筋力3該当）

○印は、筋力正常またはやや減（筋力4，5該当）

5. (PIP)の項母指は (IP) 関節を指す。
6. DIP その他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反脛膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展 屈曲 (△)